平成27年 ミニレター

広島市教育センター

11月号

写真：「新任教務主任研修・教務主任研修の合同研修より」

◆１ページ
・研修紹介（新任教務主任研修・教務主任研修の合同研修）
・学校紹介（藤の木小学校）

◆２ページ教育最前線
・Ⅰ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業『外国語科編』
・Ⅱ 教育委員会発！情報FLASH「全国学力・学習状況調査より」

研修紹介　子どもたちが主体的に情報を集め，伝え合う授業を目指して

９月９日（水）に教育センターで，情報活用型授業についての理解を図るとともに，校内で広めるための方策を考えることをねらいとして，新任教務主任・教務主任研修を開催しました。

彩が丘小学校の元田教諭からの実践発表では，

- ○ 自分たちが企画した行事を実現していく中で，新しい学習にチャレンジすることへの自信がもてるようになった。
- ○ 探究的な学習をとおして，情報の収集，編集，発信をていねいに行ったことで，学習のゴール（絆プロジェクトの実施）を自分たちの力で明確にすることができるようになった。
- ○ 相手に分かりやすいように，意識して伝え合う姿が見られるようになった。

などの紹介がありました。

実践発表後，各グループに分かれ「自校の強み（特色）を活かす学習活動にはどんなことがあるか」「校内で広めるために教務主任としてできることは何か」の2点を中心に協議を行いました。

絆プロジェクトで彩が丘団地をもっとステキにしよう

- 彩が丘団地の**課題を知る**
- ＧＴ(ゲストティーチャー)への質問による**情報収集**
- ＧＴの願いの**分析**
- 公民館行事「絆プロジェクト」の**企画**
- ＧＴへの**発表**，公民館への**提案**
- 企画内容の**実施**

情報 → 収集 → 編集 → 発信

学校紹介　ICT授業活用で文部科学大臣賞受賞！！

藤の木小学校

平成27年10月，藤の木小学校が，「フューチャースクール推進事業」などにおける「情報化促進貢献」が認められ，文部科学大臣賞を受賞されました。同校が実践していることは，「ICTを授業の中で効果的に活用し，良い授業をする」ことです。ICT環境に違いはありますが，各学校でも参考になる点は多くあります。できることからぜひ活用してください。

藤の木小学校のICT環境

- 校内無線LAN
- 各教室に
  - ① 電子黒板（IWB）
  - ② デスクトップPC
  - ③ 実物投影機
  - （①～③は常時接続）
- 全児童，教員に一人一台のタブレットPC
- 豊富なデジタル教材

効果的なICT活用のために

つながる　広がる　深め合う

一斉　個別　協働　一斉・協働　一斉・個別

課題をつかむ　個人思考　ペア・グループでの思考　全体思考　まとめ・ふり返り　適用問題・評価

めあてを書く（ノート）　自分の考えを書く・友達の考えから書き直す・書き加える（TPC・ノート）　まとめ・ふり返りを書く（ノート）

電子黒板・・・一斉学習の充実

タブレットPC・・・個別学習・協働学習の充実

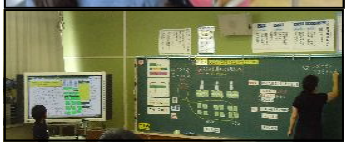
電子黒板＋タブレットPC・・・協働学習・一斉学習の充実

指導の文化は変えない
○ 黒板と電子黒板，ノートとタブレットPCの併用

学習規律を大切に
○ 藤の木スタンダードの指導

ICT活用の効果

- 子どもは集中力が高まり，説明力が伸びた。
- 教員は使うたびにICT活用の効果を実感し，ICT機器が授業に欠かせない道具として日常的に使っている。



島本校長先生のコメント

平成２２年度，堀校長先生のリーダーシップのもとフューチャースクール推進事業が始まりました。「挑戦」を合い言葉に，教職員が一つになって，試行錯誤を積み重ねながら多くの実践を残し，ICTを活用した授業力を向上させてきました。国の事業は平成２５年度で終了しましたが，森川校長先生のもと，広島市の小・中学校のICTを活用した教育の推進の中核的な役割も果たしてきました。

今後も，自校のICTを活用した授業の質を高めることが，広島市全体のレベルアップへの貢献につながるという自覚をもって実践を積み重ねていきたいと考えています。

教育最前線Ⅰ　シリーズ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業⑦

必然性のあるコミュニケーションの場の設定

外国語科編

中学校外国語科においては，「コミュニケーション能力の基礎を養う」ことが目標の最重要事項であり，主体的・協働的な言語活動の設定は大変重要です。

日常においてコミュニケーションを図る際には，お互いの気持ちを伝え合う「相手」，コミュニケーションを行う「状況」が必ず存在しますが，授業において活動を設定する際に，単純なトレーニングのみに終始したり，誰に向かって伝えるか不明確であったりするなどの例がみられます。伝える相手や状況が明確だと，伝え合う「必然性」が生じ，子どもたちの伝え合う意欲が高まると考えられます。

今回は，必然性のあるコミュニケーションの場の設定の工夫例を紹介します。

単　元　名：　第2学年　Program 7　If You Wish to See a Change
単元の目標：　意見文を読んで，自分の考えや意見を，まとまりのある英文で書く。
本時の目標：　人の考えに対して，自分の考えや意見を書く。

＜温品中学校　　山中晴詞教諭の実践＞

導入

○　ベルトアクティビティ（帯活動）

（自校の教員の写真を見せて）
「あなたは○○先生のことをどう思うか，友達に伝えてみよう」

- 単元目標の達成を意識した活動になっている。
- 習得させたい表現（ここではI think that ～. 等）を，実際のコミュニケーションの手段として使用させている。

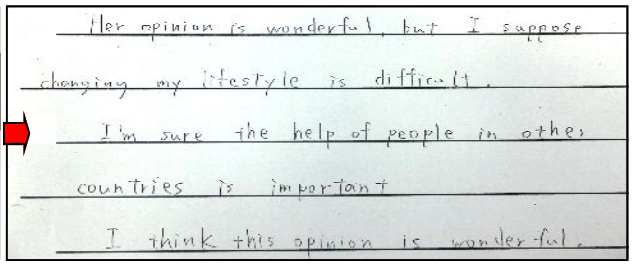
展開

○　人の考えに対して自分の考えや意見を書く活動

「セヴァンさん（本文の主人公）の考えに対する自分の意見を，セヴァンさん宛に手紙を書いて伝えよう」

- 本文の題材を活かした，具体的な状況設定となっている。
- 「誰に対して」「何を伝えるために」書くのか明確である。
- 実際のコミュニケーションの場面を意識している。

まとめ



教育最前線Ⅱ　教育委員会発！　情報FLASH

結果をふまえて改善を図る　～全国学力・学習状況調査より～

全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。ミニレター１０月号でもお知らせしたように，新任教務主任・教務主任研修内においても誤答分析等を行いました。広島市全体では基礎的・基本的な学習内容は概ね定着していると考えられます。Ｂ問題にも一定の成果が見られますが基礎的・基本的な学習内容の定着と比較すると十分とは言えない状況にあると考えられます。

現在，各校でもこの調査結果を分析して課題を把握し，授業改善に向けた取組を推進していることと思います。日々の積み重ねの学習が必要とされる，Ｂ問題の理由を説明する問題を課題にあげられる学校が多いのではないでしょうか。

今回は中でも系統性が重視される算数・数学科を取り上げ，毎年正答率が低い（平成27年度13.4%）小学校算数Ｂ「割合」を例に，指導のポイントについて紹介します。

問　題

せんざいが20%増量して売られていました。増量後のせんざいの量は480mLです。
増量前のせんざいの量は何mLですか。

多い誤答例

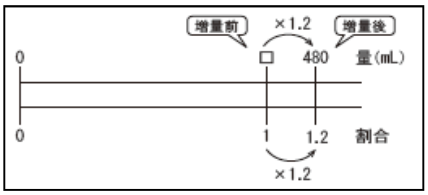
４８０÷０．２
４８０×０．２
など

課　題

基準量（もとにする量）と比較量（比べられる量）の関係が捉えられていない。

指導のポイント

数直線などの図を活用し「視覚化」を通して基準量を意識させる。



◎日常的な生活の具体的場面（○割引，消費税込など）と結びつける。
◎説明や図式化などの言語活動を取り入れる。

※国立教育政策研究所教育課程研究センターによる
「授業アイディア例」も活用してみましょう。

国立教育政策研究所 NIER National Institute for Educational Policy Research